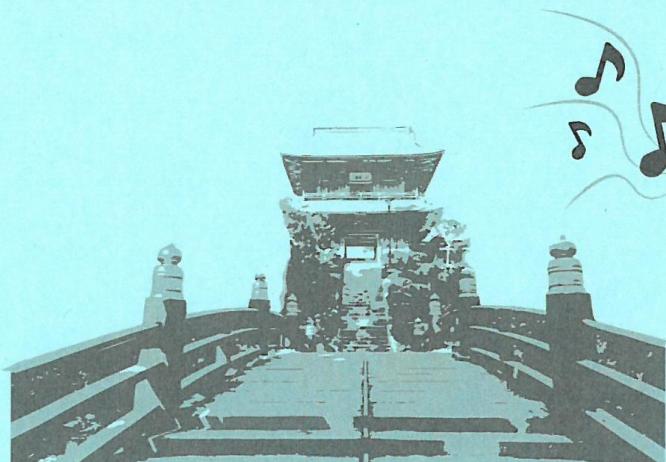
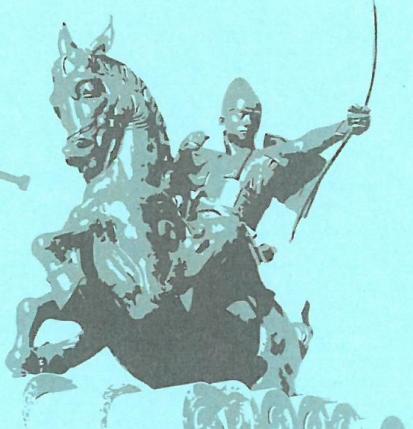
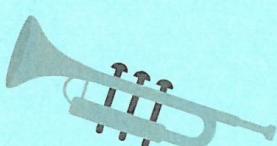


吹奏太郎



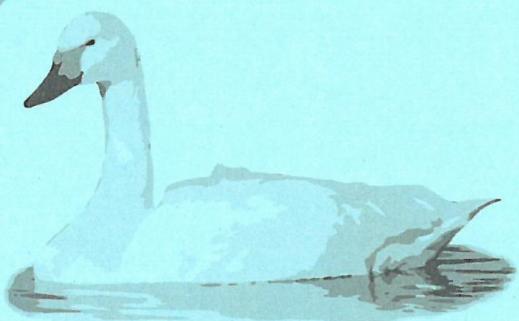
Unganji



Nasuno Yoichi



MatsuoBasho



Handanuma



Nakagawa
Suiyuen

栃木の街
あの街
こんな machi
vol.3

大田原市

はじめに

新型コロナウイルス感染症により栃木県吹奏楽連盟も大きな影響を受け、令和2年度の連盟主催行事はアンサンブルコンテストのみとなりましたが、地区大会・県大会ともに多くの方々のご理解とご協力により無事に開催することができました。各団体におかれましても、通常の活動と感染対策の両立のため、様々な面で対応に苦慮されている事と思います。

令和2年度広報誌2号の発行にあたり、連盟主催行事の他に1号と同様に連盟主催以外の活動も取り上げ、吹奏楽を愛好する仲間として吹奏楽への思いや取り組みなどを執筆していただきました。

目 次

★卷頭言

「この1年間新型コロナウイルス感染症を振り返り」

— 学校の状況や部活動の状況、吹奏楽連盟の状況について —

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

★1. 第26回東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想

令和3年1月23日(土) 小学生、高等学校、大学

令和3年1月24日(日) 中学校、職場・一般

会場：茨城県牛久市中央生涯学習センター ※感染症対策のため映像審査

★2. CRT 栃木放送「クラシックガーデン」に参加しての感想

栃木県立宇都宮南高等学校 吹奏楽部

★3. 加盟団体の実践活動紹介

「大人の吹奏楽は永遠のチャレンジ」 マーキュリーバンド団長 鈴木 真理

★4. コロナ禍に思うこと

「今、大切なこと」 栃木県吹奏楽連盟事務局長 星 弘敏

★5. コンサート・クリニック情報

※令和3年3月8日現在の情報です。新型コロナウイルス感染症の関係で変更される場合が考えられますので、事前に確認されるようお願いします。

★ 編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

「この1年間新型コロナ感染症を振り返り」

— 学校の状況や部活動の状況、吹奏楽連盟の状況について —

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

ちょうど1年前の2月初旬に栃木県内において最初の新型コロナウイルス感染者が確認された。4月7日には政府から感染予防のため、初の緊急事態宣言が東京、大阪など7都府県に発出され、それに伴い外出自粛要請が約1か月半の間続いた。

しかし、その後も感染拡大が収まらず、4月中旬には全国的に緊急事態宣言が発出され、不要不急の外出自粛をはじめ、店舗の営業自粛、旅行や帰省の自粛等、さまざまな行動が制約されることになった。なかでも学校における臨時休校は、当初5月6日までを想定していたが、感染拡大が収まらず5月末日まで延期となり、卒業式や入学式が開催不可能となるだけでなく、授業の実施や部活動も制約された。

このような状況下にあっても、人間の底力は偉大なもので、徐々に物事を解きほぐし、ウイルスに負けないよう、様々な知恵と力を發揮し、未来に向かって進もうと頑張っている様々な姿を見るにつけて、大きな感動を覚える。今日、全世界がコロナ禍で平常の生活が出来ないまま1年が過ぎ、文化活動においても制約に縛られています。吹奏楽連盟も世の中の実情に合わせて、昨年はコンクール、マーチングコンテスト、小学生バンドフェスティバル等の開催中止を容儀なくされました。このような中にあっても、地区アンサンブルコンテストを県大会の予選として、コロナ禍対策に苦慮しながら、各地区実行委員の皆様の努力により開催することができたことは大変ありがたいことでした。県アンサンブルコンテストは、12月27日宇都宮市文化会館において、新型コロナ感染症予防対策として、無観客での開催ではありましたが、参加者はステージでの生演奏審査を受けることができ、東関東大会へ代表グループを推薦することが出来ました。

2021年に入って東関東アンサンブルコンテストが1月23・24日に茨城県牛久市中央生涯学習センターにて映像審査にて開催されました。当初、ステージ生演奏のコンテストを念頭に置いて開催する予定でしたが、新型コロナ感染症拡大（第3波）により、会場となる施設の使用について、生演奏での大会開催を許可出来ないという通告が、茨城県教育委員会教育長からあり、実施方法を急遽変更しました。

東関東吹奏楽連盟では、このような事態も想定し、事前に各参加グループから映像データを提出いただいたため「映像によるコンテストへの変更」で、2日間にわたって無事開催することができ、3月20日宮崎県宮崎市メディキット県民文化センターで開催予定の全日本アンサンブルコンテストへ代表グループを推薦することが出来ました。

来年度（令和3年度）栃木県吹奏楽連盟行事の予定としては、まずもって、是が非でも吹奏楽コンクールは実施したいという思いです。来年度も、吹奏楽コンクールを中止にしてしまうと、今年度に続き、2年連続の中止となり、吹奏楽の発展性、情操教育、友情の繋りが欠落してしまう恐れがあります。行事の一大目標としてすべてを掲げて実施できるよう心して行きたい。不自由な環境を強いながらも、音楽に情熱を持ち続けて皆がそれに向かって行くならば、苦しいながらも必ずや目標に到達できると信じています。普段の「当たり前」のコンクールであっても児童・生徒達にとっては練習の辛さのなか頑張った心、職場・一般の方々にとっては、仲間とつくりあげた時間は一生の宝となるものです。

1 第26回東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想

令和3年1月23日(土) 小学生、高等学校、大学

令和3年1月24日(日) 中学校、職場・一般

会場：茨城県牛久市中央生涯学習センター ※感染症対策のため映像審査で開催

「東関東アンサンブルコンテストまでの道のり」

高根沢町立阿久津小学校 金管バンド部 部長 宮原 麻衣

私達、阿久津小打楽器チームは東関東アンサンブルコンテストに出場させていただきました。練習を始めた時は、まだ自粛期間のため集まることが出来ず、先輩が撮ってくれた動画などを見ながら各自練習をして先生にチェックしていただくという時期が続きました。初めて皆で合わせた時、バラバラだったけど音を重ねられたことに感動しました。練習をするうちにだんだん音も合うようになるのが楽しかったです。また、3人の動きやマレットの高さをそろえること、音楽表現を豊かにすることなどの細かい点も鏡の前で練習しました。県大会



では今年初めて会場で演奏が出来ました。ステージ裏に入るといつもの緊張感がとても懐かしかったです。本番では少しテンポが速くなってしまいましたが良い演奏が出来たと思います。ステージに立つ時の緊張感や大きなホールでの響きを感じることが出来てとても幸せでした。この県大会で代表に選んでいただき、東関東大会に向けてたくさん練習をしました。県大会で上手く出来なかつたところを今度は完ぺきにしようと思いました。

しかし、一週間前になると会場審査はなくなり映像審査に切り替わってしまいました。コロナ感染防止のためなので仕方がないとわかっていても、聞いた時には皆涙が出ました。その時はとても悔しい気持ちでしたが、結果発表の日にホームページで結果を見た瞬間その気持ちも吹き飛びました。私たち打楽器三重奏が金賞を受賞していたからです。去年に引き続き、今年も金賞を受賞することができとても嬉しかったです。皆の頑張りを結果に結びつけることが出来ました。来年メンバーは変わってしまいます、今年の感動や悔しさを力に、また楽しく演奏できることを願っています。最後になりますが、いつも熱心に指導して下さった先生、応援して下さった保護者の皆さん、練習用動画を撮って下さった先輩、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

「東関東アンサンブルコンテストに出場して」

栃木市立栃木第三小学校 打楽器三重奏 6年 大戸 優奈・武井 実憲 5年 佐山 はる

昨年は3月から8月まで、新型コロナ感染症のために学校での部活動ができませんでした。今年の部活は?コンクールは?と不安な中でしたが、学校から楽器を貸していただき、時々 zoom でみんなと顔を合わせながら少しづつ練習してきました。

マリンバ三重奏「精霊の詩」の楽譜をもらって一人で練習している時は、これが本当に出来るようになるの?と思っていました。なので、やっと9月に部活動が分散で再開し、久しぶりにみんなと直に会って一緒に合わせられるようになった時、「一人じゃないんだ!」という安心感と、仲間と一緒に練習できる嬉しさで一杯になりました。

それからは楽しくて、毎日たくさん

練習しました。お互いの演奏を聴いてもっとよくするために話し合ったり、友達のパートと交代してみたりするなど、色々試してみました。3人の音もどんどん合うようになってきて、ますます練習が楽しくなりました。

初めてアンサンブルコンテストに出場し、県大会の結果をみんな揃ってインターネットで見ました。金賞・代表をいただいたことが夢のようで、3人で喜びを分かち合い、一生忘れられない思い出になりました。その後の東関東大会は映像審査になり、会場で演奏することはできませんでしたが、締め切りギリギリまで練習を重ねた演奏を幸運にも高く評価していただきました。金賞の賞状が届いた時、夢じゃなかったと思って本当に嬉しかったです。

コロナで大変な中でしたが、一緒に合奏ができる楽しさや、音楽を作り上げていく嬉しさと達成感を心の底から感じることができました。それは、先生をはじめ、多くの方々が支えてくださったおかげです。最後まで、3人一緒に笑顔で仲良く演奏できて良かったです。



「第26回東関東アンサンブルコンテストに参加して」

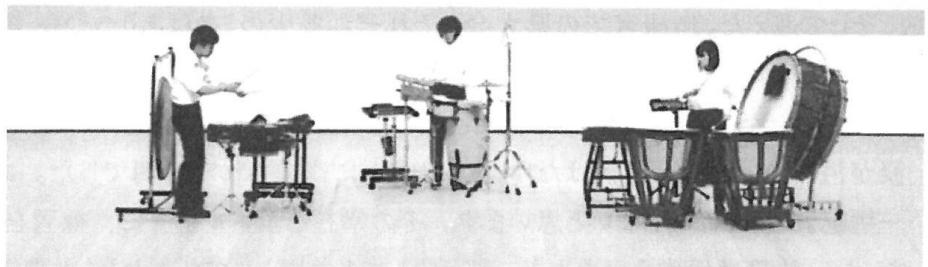
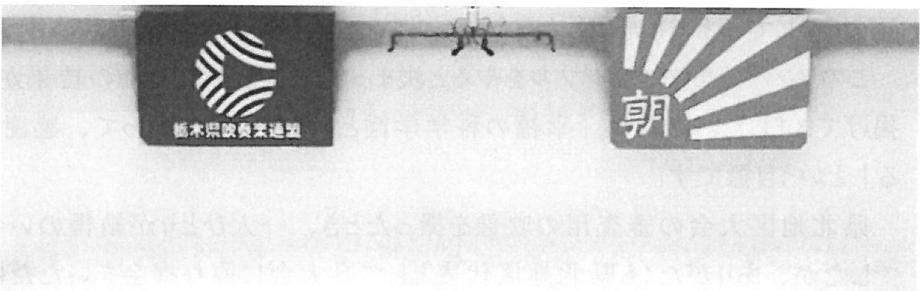
宇都宮市立雀宮中学校吹奏楽部 副部長 大嶋 陵太

私たち雀宮中学校打楽器三重奏は、メンバー全員がアンサンブル初挑戦でした。10月頃に顧問の先生から楽譜をもらい、自分たちで演奏できるか不安でしたが、一日一日を大切に集中して練習に取り組みました。

コロナの影響で練習時間が限られていたため、短時間しか練習できないときは、全員で机やパットのみで合わせ練習をし、ズレを修正するなど感覚が鈍らないように工夫しました。

今年は他の学校の演奏を聴いたり、人前で演奏する機会が少なく、本番の緊張感をイメージすることが難しいときもありましたが、クラリネット三重奏の仲間と演奏をお互いに聴き合ったり、顧問の先生が部員の前で発表する機会を何度もつくれてください、本番では集中して堂々と演奏することができました。

また、今年はいつ部活動が停止になって練習ができなくなるかわからない状況だったため、日頃の練習はもち



ろん、県央地区大会や県大会でも「これが最後の演奏になったとしても悔いのないようにしよう」という気持ちで臨んでいました。県大会が終わり、結果を見て、東関東アンサンブルコンテストに出場が決まったときは、とても嬉しかったです。

東関東大会当日は映像審査となりましたが、東関東大会の前々日には、部員や学校の先生方の前で今までの成果を発表しました。そこに至るまで、多くの方々が私たちを支えてくれて応援してくれたことに感謝しています。そして、東関東大会で銀賞という結果を残せたこと、審査員の先生方が私たちの演奏を聴いてアドバイスやこれから課題を書いてくださったことも、これからモチベーションにつながり、嬉しかったです。

アンサンブルコンテストを通して、仲間と演奏することの楽しさを改めて知りました。来年度の夏に向けて、この経験を生かしてこれからも頑張っていきたいと思います。

「東関東アンサンブルコンテストへの道」

幸福の科学学園吹奏楽部 学生指揮 清水 美咲

私たちは今回、創部10年目にして初めて東関東アンサンブルコンテストに出場させていただきました。

今年度、県大会は無観客審査、県北地区大会と東関東大会は映像審査となりました。コロナ禍でも演奏・審査をしていただけた機会をいただけたことに心から感謝しています。

振り返ってみれば長いよう

短く、そして、とても充実した日々でした。



このメンバーでアンサンブルをやると決まってから東関東大会の結果が出るまで、私たちはずっと一つの目標を掲げてきました。それは「幸福の科学学園という名前を背負って、感謝と感動、そして私たちらしい音楽を届ける」という目標です。

県北地区大会の審査用の映像を撮ったとき、一人ひとりが納得のいく演奏ができず、不安と後悔でいっぱいでしたが、ありがたくも県北地区代表として県大会に臨む機会をいただけたことで、一層目標を深め、更なる高みを目指して練習をすることができました。

そして迎えた、無観客での県大会。それぞれ多少のミスはありつつも、実際に聴いてくださる審査員の方々に「私たちの感謝の音楽を届けたい」という思いが3人で一つとなり、悔いの残らない良い演奏ができました。代表を選んでいただけたとき、「私たちの思いを乗せた音楽が、審査員の方々に届けられたのだ」と実感でき、自然と涙が溢れました。掲げ続けた目標が、確かに達成された瞬間でした。あのときの感動と喜びを、私たちはきっと一生忘れることができないと思います。その幸福をエネルギーに、練習を重ね、東関東大会審査用の映像を撮りました。結果は銀賞をいただき、部活としても学園としても、大きく一歩前進することができました。この機会をいただけたこと、そして支えてくださった多くの方々に、心から感謝しています。また、一緒に音楽をつくってくれた仲間を誇りに思います。この結果を糧に、幸福の科学学園吹奏楽部一同、更に成長を重ねていきたいと思います。ありがとうございました。

2 CRT 栃木放送「クラシックガーデン」に参加しての感想

「演奏する喜び」

栃木県立宇都宮南高等学校吹奏楽部 部長 2年 徳吉 希歩

「コンクール中止」そう告げられた時、私は高校生として過ごすたった3度の夏を1つ奪われた様な気がしてぶつけようのない悔しさが込み上げてきました。ずっと前から練習していた定期演奏会も中止となり、私は楽器を演奏する目標や目的を見失ってしまいました。以前のやる気を無くしていた時、先生が演奏会を提案してくださいました。会場は体育館。そこに集まってくれた保護者の方々。久しぶりに見る景色に私は「ここに居る人達の心を動かしたい!」と忘れていた演奏する目的を思い出したのです。本番は緊張しましたが、それ以上に演奏出来る喜びが大きかったです。それから少し経ち、その日の演奏がラジオから流れるのを聴いた時、夏は奪われていなかつたのだと思いました。「プログラム1番、県立宇都宮南高等学校」辛かったけれど、悔しかつたけれど絶対に忘れることの出来ない夏。私達の活動を応援し、支えて下さった全ての方々に心から感謝の気持ちでいっぱいです。



「久しぶりの緊張感」

栃木県立宇都宮南高等学校吹奏楽部 副部長 2年 浅見 来実

私達にとって1番大きな吹奏楽コンクールも中止になり、部活動も満足に行えず、何を目標に練習しているのかとやり切れない気持ちになることもありました。しかし、今回このような機会を頂いた事により私の中でも部全体でも新たな目標が生まれ、録音本番では久しぶりの緊張感も味わうことが出来ました。また、演奏前の緊張感と、演奏後の達成感に懐かしさも感じました。吹奏楽で、聴いている人に感動を与えたという目標に向かって私は今まで練習してきたのだということを思い出すきっかけにもなりました。自分たちの演奏を誰かに届けることが出来る

ということがこんなにも嬉しいことなのだと心から実感し、今まで当たり前のようにステージに立って演奏してきたことが奇跡のようにも感じました。

いつかまたステージの上で演奏できることを願い時間が許される限り部の仲間とともに楽しく活動していきたいと思います。

とても貴重な演奏の機会をくださりありがとうございました。

3 加盟団体の活動紹介

「大人の吹奏楽は永遠のチャレンジ」

マーキュリーバンド 団長 鈴木 真理



我がマーキュリーバンドは一般の吹奏楽団です。発足したのは平成4年。学生の吹奏楽人口も多く、続々と新しい一般団体も増えている頃、卒業後も楽器を演奏したいと思い、仲間を集め活動を開始しました。これまで年1回の定期演奏会開催、アンサンブルコンテストやイベント演奏に参加、次第にファンが増え、多くの依頼演奏が来るようになりました。社会人としての生活の中で、趣味として楽器を続けていくことは容易ではありません。練習場所は主に公共施設を借りていますが、場所と時間の確保や大型楽器などの悩みは、活動する中でいろいろと協力し合って成り立っています。そこには団員の楽器に対する情熱が支えとなっています。

活動の中心である定期演奏会は、1年かけて準備しています。野望家な団員たちを中心に「もっと～のような演奏がしたい!」「もっと～のようなステージにしたい!」等、観客を魅了するための仕掛けを大人ならではの発想で演出を考えます。聴かせる音楽、観る音楽、様々なジャンルの曲が演出により磨きが掛かり、みんなで力を合わせ全力で「ステージ」を作り上げています。マーキュリーバンドは奏者も観客も楽しむことがモットーです。感動を与えられる演奏が出来た時は最高ですね。吹奏楽は沢山の可能性を秘めています。

現在、コロナ禍での活動は大変厳しく、昨年は定期演奏会が延期となり1年間演奏を全く披露する機会が得られませんでした。挑戦するどころか楽器が吹ける環境を作るのに精一杯な状況が続いています。仕事や家庭など環境の変化から楽器を続けることが厳しいメンバーも出てきています。吹奏楽について時間を忘れて語り合い、意気投合する機会すらなく雑談も出来ない状況です。モチベーションを保つことに重要性を感じています。そのような中でも、音楽で明るくなりたいと思う気持ちが原動力となり、行政の方針を逐一チェックしながら、少しづつ合奏ができる環境を作るために試行錯誤しているところです。

近年、県外出身者の新団員も増えています。新天地でも楽器を続けたいと思うのは、身近な存在である吹奏楽ならではなのかも知れません。楽器を吹きたいと思う人は今でも多いと感じています。ただ皆が同じ環境で出来るとは限らないので、それぞれ適したところで楽しんで欲しいし、チャレンジして欲しいと思っています。それが、マーキュリーバンドであれば是非一緒に楽しみましょう。

1日でも早く、これまでの野望を抱きながら楽器を吹くことが出来る日を心待ちにしています。それまでは、今出来ることから活動していきたいと思います。

4 新型コロナ禍に思うこと

「今、大切なこと」

栃木県吹奏楽連盟事務局長 星 弘敏

連盟役員としての自覚とともに、役員だけでなく、加盟している団体の指導者、部員、団員そして吹奏楽、音楽を愛する人たちが損得や利害を捨て、心一つに音楽文化の衰退を招かないよう努力し合うこと。特に、純粋な心を持つ小学生、中学生、高校生を指導する立場にある方々一緒に頑張りましょう。

もちろん人の命が一番大切なことに変わりはありません。

吹奏楽の世界に目を向けると、全国的に、特に公立学校においては、「教育行政や管理職の縛りが厳しくて何もできない」「コロナ禍での練習についての苦情で困っている」「練習の方法がわからない」等々、問題は山積みです。でも、こんな時こそ吹奏楽連盟が存在する目的をよく考え、みんなで情報を共有し、子供たちのために助け合いましょう。絶対に、吹奏楽連盟はコンクールやコンテストのために存在するのではありません。

吹奏楽連盟もできるだけ情報を収集し提供します。インターネットやSNS等を利用し、集団で集まることができないときの練習方法や楽しみ方を提供します。新型コロナ感染拡大予防対策を尽くした上で、できる限り皆さんの発表の場をつくったり、音楽鑑賞のためのコンサートを開催する努力をします。

何事も悪く考えたり、後ろを振り返っているだけでは切りがありません。今まで苦しいときほど、人間は知恵を結集して乗り越えてきました。是非、皆さんの知恵と熱意、協力によって栃木県の吹奏楽界、延いては音楽界の危機を乗り越えましょう。

5 コンサート・クリニック情報 (令和3年3月8日現在)

※新型コロナウイルス感染症の関係で変更の可能性が考えられますので、確認をお願いします。

♪宇河地区スクールバンド・フェスティバル

令和3年6月26日(土) 会場：栃木県総合文化センター

問合せ：090-1428-1734 (今泉先生)

♪小山地区吹奏楽フェスティバル

令和3年7月17日(土) 会場：小山市立文化センター

問合せ：0285-22-0168 (小山中学校 津村先生)

♪栃木地区吹奏楽フェスティバル

令和3年7月18日(日) 会場：栃木市立栃木文化会館

♪芳賀・真岡支部吹奏楽祭

令和3年7月18日(日) 会場：市民いちごホール (真岡市民会館)

問合せ：0285-72-2539 (田野中学校 小森先生)

「日本吹奏楽指導者クリニック」について (令和3年3月8日現在)

期 日：令和3年5月14日(金)～16日(日)

Web開催を含めて実施方法を検討中です。詳細については、随時ホームページで確認してください。なお、令和元年に開催された第50回クリニックの様子を、一部の講座ですが動画で見ることができます。参考にしてみてください。

編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

コロナに明けコロナに暮れる令和2年度。まだまだ日常は取り戻せていませんが、少しずつ光が見えてきます。制約はあるものの徐々に活動が再開されつつあるなかで、最善と思われる感染対策を施しての生活は大きなエネルギーを必要とし、心身ともに疲労が蓄積されかねません。現場を離れているからとお叱りを受けるかもしれません、こんな時だからこそ、たとえ数分であったとしても「自分」を大切にする時間を作り出してみませんか。自分自身を充電しなかったら、学習も仕事も家事も（あまり気づかれない名も無き家事も含めて）やりがいや達成感を得られないのではないかでしょうか。

私事で恐縮ですが先日、何年間も箱に入れたままだったCDを取り出しました。授業で使えそうな音源は退職の時に後輩の方にお譲りしたので、手元にあるのは自分が楽しむための音源が少々。何気なくかけた5分足らずの曲は、現職当時のイライラ解消や平常心を保ちたいときに繰り返し聴いた曲でした。何度その曲に助けられたことか。今更ながら～音楽っていいなあ～と再認識です。

吹奏楽に携わる私たちは「音楽が好き」な人たちを育てています。大会の結果も大切ですが、そこに至るまでの努力や工夫を重ねて取り組む過程で、自己肯定感を高めると共に他者への理解と尊重を身につけていく。今年度の原稿には周囲への感謝の他に、今まで当たり前だった事の奇跡に近い大切さも書かれていました。児童生徒の気づきのひとつです。また、指導者同士の連携も重要です。県内には編成の大小を問わず豊富な指導ノウハウを持つ指導者、広い人脈を持つ指導者がたくさんいます。その方々を良い意味で利用しましょう。請われてノーと言う方はいないと思います。

幼児から高齢者まで、生涯現役で音楽を愛好する仲間を一人でも多く増やし、地域の、そして栃木県の音楽環境の向上に繋がるよう、互いに切磋琢磨し合いながら日々の努力を重ねていく私たち栃木県吹奏楽連盟でありたいものです。

このような状況下で原稿をお寄せくださった方々に深く感謝いたします。ありがとうございました。当たり前の日常はもう少し時間がかかりそうですが、一日を大切に、「今できる事」「今だからできる事」に目を向けて進んでいきましょう。

《お願い》 各地区や支部・団体の活動について情報をお待ちしています。また、それぞれの立場や場面での要望・意見・感想なども、気軽にお寄せください。

なお、原稿の依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが是非お書きいただき、期限内にお送りくださいますようお願いいたします。